

特51-544



1200500904024

特51

544

大津絵の由来

国立国会図書館

16  
90



江戸  
史  
著

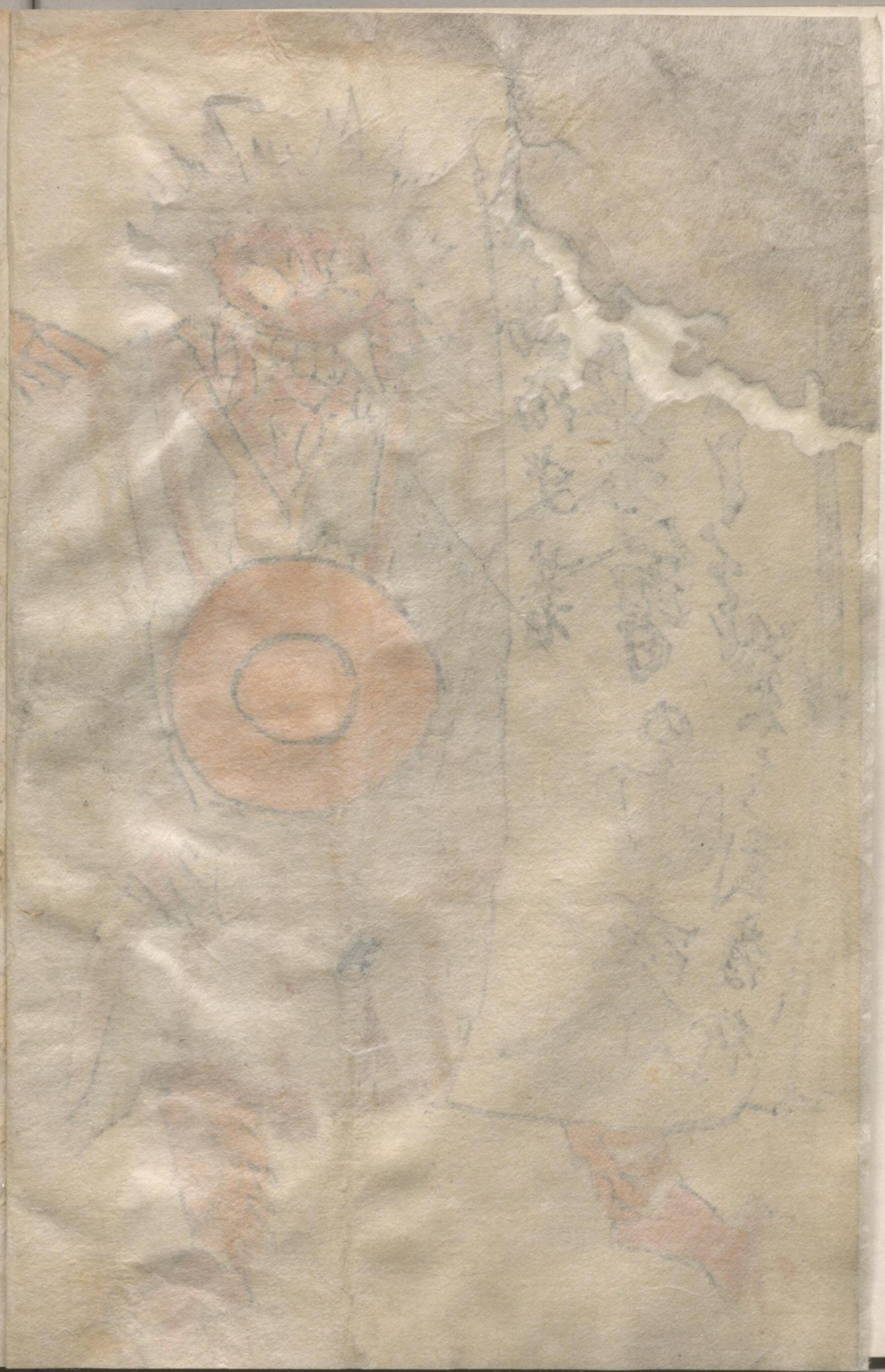
大  
漢  
會  
の  
由  
來

此  
系  
多  
國  
共  
行



自叙

東海道ハ五十三驛ト稱ス至ル処名物少カラスト雖モ就  
 中大津繪ノ名大ニ著ハル然ルニ近年此繪ヲ鬻ケル家ア  
 ルヲ見ス可憐名物ヲシテ殆ント廢絶セシメントス豈遺  
 憾ノコトナラスヤ偶々頃日一二再興ヲ謀ル人アリト聞  
 キ密カニ其畫風ヲ觀ルニ或ハ此繪ノ筆法ニハ合ハサル  
 モノアルヤニ覺ヘリ余カ友人中根君ハ其家世々關泉園  
 下景ヲク此畫ノ筆法ヲ傳フ依テ請フテ秘藏ノ古畫數  
 葉ヲ刻シテ之レヲ本書ニ挿メリ畫樣一見拙劣ナルガ  
 如キ却テ此畫ノ眞粹ト云フヘシ説クトコロノ由來ニ  
 至リテハ余ガ力ヲ盡シテ材料ヲ蒐集セシモ未ダ確乎據  
 ル可キノナ見出ス能ハス止ムヲ得ス諸説ヲ折衷シタ



ルモノナレハ多少ノ齟齬ハ素ヨリ免レサルトコロナリ  
看者此意ヲ諒シ示教ヲ玉ハ、幸甚

明治二十七年夏

湖南寓居ニ於テ

江陽釣史よしと誌

めせやく、大津に名たゝる浮世繪の、其いにし  
くの御佛をものして、旅づとにせしを、中昔より  
平どかいへるもの、佛畫のいとまに、あやしきざれ畫をか  
きはじめし、其くさくには、鬼の念佛したる、座頭の醉し  
れし、神鳴の太鼓落したる、女の藤の花持たる、瓢にて鮎か  
さへたる、前髪の鷹匠、辨慶釣がねをかたげたる、此外品々  
あり、斯あされたる畫なれど、是を張りし家の内には夜盜  
いらす、又幼子はおそはれずして、よく眠るとて召るゝあ  
り、はた風流を好む人は此畫のふりよ、何某の家の畫法に  
もあらず、定むる所の筆法にもよらで、おのれなりのあや  
しきがかたまりて名物となれるがをかして召す、そわ  
召す人々の御心にしまかせなむ、めせやく



戸さしなき世に逢阪のおほつ繪を  
めす人ばかりせきとゞめてん

逢阪山麓

## 關泉園

右ハ往時ヨリ關泉園ノ店頭ニ掲ケシト云フ匾額  
ニ記スルモノニテ其匾額ハ今尙園主中根氏ノ藏  
スルトコロ余請フテ之ヲ寫ス蓋百年以前ノモノ

明治甲午夏日

著者又識

## 大津繪の由來

江陽釣史著

サテ衆位は織田信長の時代に攝津守荒木村重といふ武將のあり  
しことは御存でせう此村重は天正七年に故ありて自殺いたしま  
したが其時又兵衛といふ二歳になる子がありて乳母に誘はれて  
越前國へ行き母方の湯淺氏に養育れしゆへ荒木又兵衛といはず  
して湯淺又兵衛といふことになりました又兵衛成長の後ち京都  
へ出まして土佐風の繪を學びました其業よほ上達して終に  
は大和繪の一家風をおこし巧みに時世の人物を畫きましたから  
世に浮世又兵衛と呼ました又兵衛の子に又平といふものがあり  
て此人は訥りでしたから世間のものが訥又と申ました所で此訥

又先生も京都にて或る名高き畫工の弟子となりて繪を修業まし  
 たが如何いふ譯でか其師匠から勘當を受けそれが爲め家も追々  
 と零落して活計にも差問ゆることになりました乃で妹の藤波が  
 見兼ねて白拍子となり兄へみつぐことにしましたから又半も一時  
 困難を免れましたが因果なことは其白拍子になつた藤波が不  
 圖も人手にかゝり敢無き最期を遂げしかば又平の悲嘆はいふば  
 かりなく去れど今更詮なきことゝ一と先づ京都の住居を引拂ふ  
 て江州へ移り大津追分のほとり足止め口糊の爲め且は妹藤  
 波菩提のため佛像を畫きて賣ること致しましたが此佛畫な  
 かく能く賣れて田舎人は家に祀りて尊信んだ程ですから終に  
 土地の名物となり東海道五十三驛の内でも大津繪又は追分繪と  
 稱し大に持て囃さるゝようになりました其後に至り種々おどけ  
 たる人物をも畫くことゝなり佛畫の方は何時の程にか廢れまし

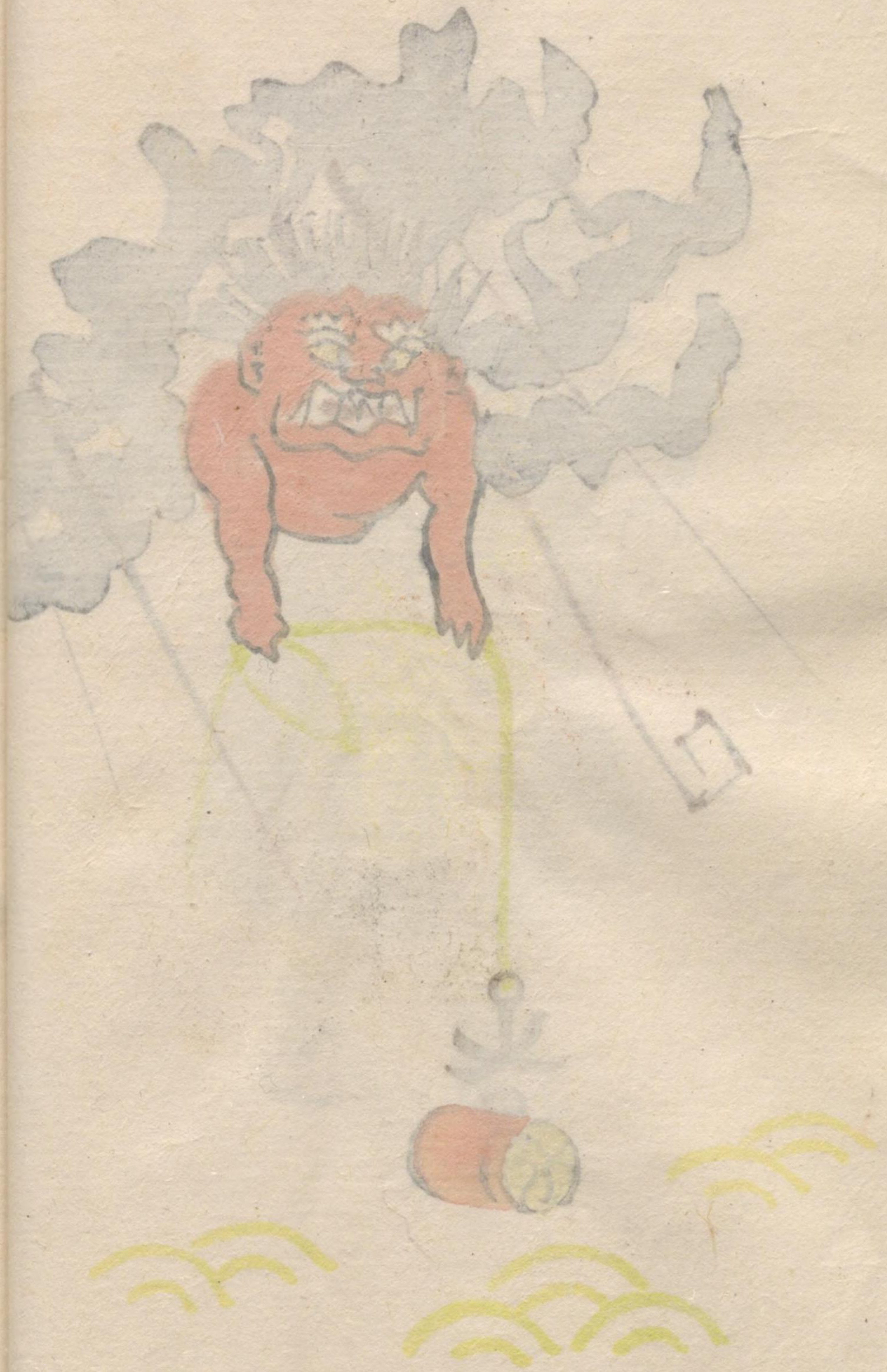












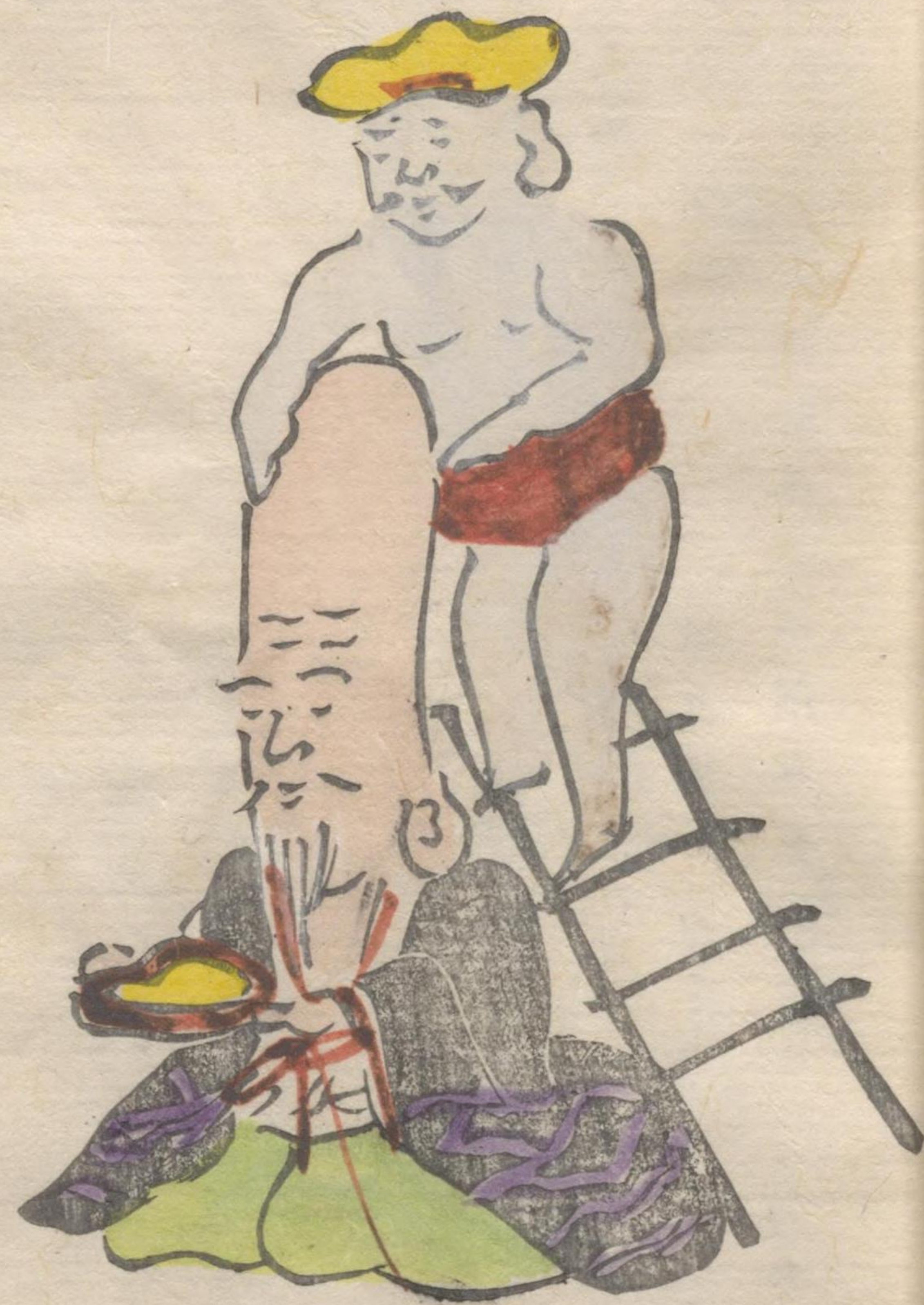
















た芭蕉翁の發句に「大津繪の筆の始めは何佛」といふがありませすか  
 らナンデモ翁の往來せしころはまだ佛畫をかきしと想はれます  
 シテミルト人物を畫き始めたは貞亨元祿以後のこととサツト二  
 百年計にしかならぬようです而して現時大津繪といふて傳へて  
 いるは御存じの通り左の十種であります

藤 娘  
 雷 公  
 座 頭  
 鷹 匠  
 依 藤 太

鬼の寒念佛  
 鯰に瓢箪  
 奴の鎗持  
 辨慶  
 長頭翁

併し大津繪は決して此十種に限る譯ではなく幾百あるとも分り  
 ませぬ然るを世人が此十種に限るよう思ふに至りし所以は畢竟  
 此十種が自然世間の嗜好に合ひ殊に大津繪節、追分節など稱して

俚歌に讀込み三絃につれて謠ふといふ有様になつたものだから  
 いよ／＼此十種が能く賣れることゝなり遂には世人をして右の  
 如く思はしむるに至りしからん  
 已に述べし如く繪の種類は澤山ですから大概は出鱈目の戯事な  
 らんが中には多少因縁のありそうかと思はれる畫もあります例  
 へば藤娘は訥又の妹藤波の姿なりといふが如きは如何にも藤波  
 といふ名に因みて藤の花を肩に掛させしなどは當るようです去  
 ながら藤の花は紫なるを以て之れを紫雲にたとへ單に藤波の姿  
 といはずして藤波成佛の姿ありといふに至りては附會説とも評  
 すべきか此他、依藤太は瀬田橋蝦退治の話に基き辨慶は三井寺  
 の引摺鐘に因し者とは誰にも能分るあり其外にも因縁のある畫  
 あらん偶意ある畫あらんれども餘り深く穿てば又附會説と笑  
 れん依てソハ看者の判断に任さんのみ

大津繪の由來 終

明治廿七年八月廿四日印刷  
 明治廿七年七月卅一日發行

定價金拾錢



著者

杉本善郎

滋賀縣坂田郡長濱町大字相生 三百七十六番  
 當時同縣高嶋郡大溝村大字勝野第百九番  
 屋敷寄留

發行

後藤七兵衛

同縣滋賀郡大津町大字中保第八十番屋敷

印刷

中川大次郎

同縣同郡同町大字後在家

大販賣所 有慶堂 古川伊助

江陽釣史著  
近江八景案内

(全一冊)

書入 かなつき  
定價 金五錢

發行所

大津町大字中保八番屋敷

後藤紫水園

滋賀縣知事從四位大越亨公題辭  
少教正梅塘景山豐樹君題詠  
近江名所案内

(全一冊) 密書入

近刻

發行所

大津町大字後在家

古川有慶堂

同

町大字上小唐崎町

中井二酉堂

(大津町大字獵師中川活版部印刷)

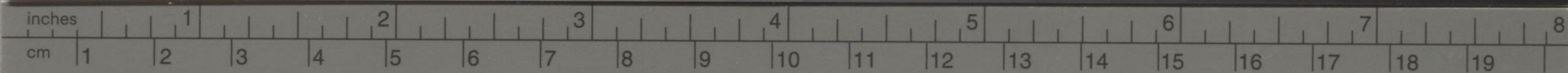


# Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

**A** 1 2 3 4 5 6 **M** 8 9 10 11 12 13 14 15 **B** 17 18 19



## KODAK Color Control Patches

© 2021 Kodak. All rights reserved. TM: Kodak. KP127082B

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

